大塚敬節
矢数道明 責任編集

近世漢方医学書集成

66

香川修庵 二

名著出版刊

南京中医药大学图书馆版权所有

近世漢方医学書集成 66 香川修庵(二)
第Ⅲ期 全40巻

昭和五十七年五月二十三日 発行

編者 大塚敬節 矢数道明
発行者 中村安孝
発行所 株式会社 名著出版
東京都文京区小石川三ノ十ノ五
電話東京(八一五)一二七〇番(代)
振替口座 東京七—一〇七四四番

予約限定版

製版所 株式会社 日本写真製版社
印刷所 有限会社 伊藤印刷
製本所 辻本製本所

落丁本・乱丁本はお取替えします。

3347—0964—8324

責任編集

大塚敬節

矢数道明

編集委員

山田光胤

寺師睦宗

大塚恭男

矢数圭堂

松田邦夫

凡　例

一、本書第六十六巻「香川修庵㈡」には、『一本堂行余医言』巻七～巻十二までを収録した。

一、本書は全て影印版によって収録したが、影印にあたっては次のようにした。

イ、新たに柱と頁数を付した。

ロ、底本を縮少し、一頁に半丁ずつ収めた。

ハ、裏表紙や記事のない白紙は省略した。

ニ、底本にある蔵書印及び書き込みは省略した。

ホ、印刷不明な箇所は、他の版本等により補正したところもある。

一、底本は次の通りである。

一本堂行余医言　版本　（天明八年版）　二十二巻二十二冊（大塚恭男氏所蔵）

一、本書収録書目の解題については、第六十五巻「香川修庵㈠」に記した。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

香川修庵 (二)

目次

凡　例……三
一本堂行余医言
巻之七……三
労瘵……五
附字弁……一〇八
附字弁……一五四
弁崔氏四花灸法……八九
欬嗽……一一
巻之八……一五七
失血……一五九
汗……二五三
失精……二三三
遺溺……二七五
巻之九……二八三
喘哮……二八五
短気少気……三三五
附字弁……三九六
附字弁……三三八
眩運……三四五
巻之十……三九九

痰……四〇一
腸垢……四六七
巻之十一……四七三
傷食……四七五
附字弁……五一四
留飲……五三三
泄瀉……五四三
附字弁……六一四
巻之十二……六一九
噎……六三一
附字弁……六七七
咽嗆……六七九
附字弁……六八五
嘈雑……六八七
附字弁……六九五

一本堂行余医言　(二)

一本堂行餘醫言 七

勞瘵欬嗽

修琴堂藏書
第 丁史 36 號

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

一本堂行餘醫言卷之七

平安　香川修德太沖父　著

勞瘵　瘵側界切音鄭

勞者以斯疾由勞而成而言也瘵者具斯疾之狀候之名也勞者疲也專因心勞房勞猶作強而力乏也蓋力弱不勝其事則身疲而勞氣壹屢動其志則心憊而勞或以身殉財之小人過用心於生理或以色爲天之少年滾溺情於冶容氣乏精耗內勞已生隙方是之時外加以微風寒

則惡寒發熱欬嗽始作外之所誘內之所應桴鼓同時斯疾始成矣其始寒熱欬嗽輕輕微微未甚困苦故世人輕視不以為意或至不加治療間及延請醫者亦不的知徒用不寒不熱之草藥融融泛泛荏苒月日之間危候現出終至無可奈之何痛哉若當其輕微之時早從事於灸則猶可救十之二三此其脉將數未數之時也若已數則決不可治矣醫書論勞脉皆不中肎綮或曰浮大或曰弦緊或曰虛其謂浮大者非眞浮大即芤也弦緊者熱勢使然

之弦緊也唯虛則虛也此皆非眞勞脉故猶可治吾門所謂眞勞脉者即數是也故數則決不可治矣參雖倍萬而難濟事徒使人苦耳況草藥何足以恃乎蔓木蒼歸之草根之乾癟者抑有何功力也後世醫人以此爲保命者不亦大謬乎夫勞瘵之成也元非一端而至乎既成勞瘵則皆一而不可治也或有卒然急成者或有以漸成者或有傷風寒徵邪後漸見患狀者或有瘧後自成者或有痢後而成者或有諸病半愈淹滯中遂成斯證者痔漏瘰癧後

尤多或有黴瘡壞證後成者婦人產後患之者謂蓐勞在小兒則疳疾是也若其卒然成者由房事過度減耗精液也以漸成者由感冒徼邪差後不慎保護或近帷幄或過患慮復感復勞日瘦月疲遂成斯疾也傷風寒徼邪後瘡後痢後諸病後產後成勞者皆同以漸成者蓋其爲證也以欬嗽爲首候俗呼爲勞欬者極當總言之則欬嗽吐白沫午後惡寒發熱盜汗自汗體瘦脉數是也或有哈哈只爲乾欬嗽者或有吐稀痰白沫者有吐沫多者瘦瘠愈劇

為大惡候間有吐膠痰者或有吐黃痰如膿且臭者間有吐凝似痂者兼吐血膿者古謂之肺癰吾門不從何也此雖以臭膿言之而其實則肺之有癰無癰固不可知況以元非癰生肺臟唯當胸中心肺部分或痛膿應自此處來漫漫姑且以肺癰名之耳若然則不如名胃脘癰之尤近也究竟勞瘵熱鬱之餘自胃口至咽門之間蒸爛出膿或血也故吾門不用肺癰名況立別條乎唯為勞瘵中一證可也午後發熱甚者大惡候也微熱者其證緩有惡寒者

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com